

# 【No.2 いわてものづくりDX推進コミュニティ（IMDC）】

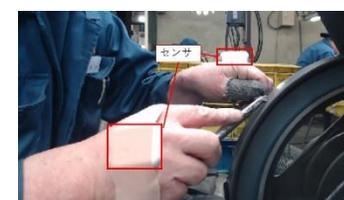
● **活動地域** 岩手県

## ● 【いわてものづくりDX推進コミュニティ】の特徴

■ **特徴① 強力な産学官連携体制**

■ **特徴② ワンストップ支援**

■ **特徴③ 大手・中堅メーカーとの連携**



### 設立の背景・主な構成員

#### ● **地域DX推進コミュニティ設立の背景・きっかけ**

県内のものづくり企業側においては、経営者及び実部者のDXへの理解や人材育成等IT活用の土壌形成を進めるとともに、IT企業側においては、ものづくり現場に関する知見や最新技術の習得、プロジェクトの参画経験等による企業の成長と自社DX事業への応用活用が重要となるため、IMDCを整備の上、ものづくり企業及びIT企業の両者の育成を支援する。

#### ● **代表機関**：【公益財団法人いわて産業振興センター】

DX導入に関する知見を有する専門家（DXコーディネーター）を配置し、IMDCの円滑で効果的な活動を推進する。

#### ● **構成員**：

【有限会社イグノス/株式会社システムベース/株式会社長島製作所/株式会社ビットエイジ】

課題解決のために必要なノウハウやソリューションの提供、自社製品を活用したユーザー企業への支援

【岩手大学/岩手県立大学】

課題解決のために必要なノウハウの提供

【岩手県よろず支援拠点】

課題分析・戦略策定・伴走型支援（経営）

### 支援活動の内容

#### ① **地域企業のDX推進に向けた課題分析・戦略策定の伴走型支援**

DX周知と機運醸成のためにセミナーの実施、取組企業の掘起こし、ヒアリングによる課題の整理と分析を行い、戦略策定を支援する。

\* セミナー、成果報告の開催（各1回）

\* ヒアリング（企業訪問）：30社

\* 課題の整理：10社

\* 戦略策定の伴走型支援：県内ものづくり企業3社

#### ② **地域企業とソリューション提供事業者（ITベンダー等）とのマッチング**

DXコーディネーターがITベンダー・高等教育機関等を選定し、企業とともにテーマの実施計画を作成、実践プログラムを実行する。

\* 県内ものづくり企業3社×10回程度

#### ③ **その他、地域企業のDX推進に向けた支援活動**

デジタル化・DXに取り組むメーカーを講師とした製造現場におけるDX勉強会及び視察会を開催し、県内ITベンダーを育成する。

\* 視察会：1回 県内ITベンダー 5名

\* 勉強会：県内ITベンダー 3社×6回程度

## ● **キーパーソン**



➤ 代表機関：公益財団法人いわて産業振興センター

➤ 伊藤 憲三

（いわて産業振興センター チーフコーディネーター）

事業の統括

課題解決に必要な手法への仕分け



➤ 構成員：株式会社ビットエイジ

➤ 大道 顕二郎

（株式会社ビットエイジ 代表取締役）

課題解決のために必要なノウハウやソリューションの提供

## ● **問い合わせ先**

公益財団法人いわて産業振興センター 産学連携室 藤倉 [TEL:019-631-3825](tel:019-631-3825) Mail:[h\\_fujikura@joho-iwate.or.jp](mailto:h_fujikura@joho-iwate.or.jp)

# 【No.2 いわてものづくりDX推進コミュニティ（IMDC）】

## 支援スケジュール（令和4年度実績）

第1term【7月】

第2term【8月～10月】

第3term【10月～2月】

第4term【3月】

### DXの周知活動

- ターゲット
  - ・県内ものづくり企業（経営層）
  - ・県内ITベンダー
- 周知方法
  - ・セミナーの実施
  - ・HPでの周知
  - ・産業情報誌での周知

### ヒアリング等による企業掘り起こし・課題整理

- ・7/7セミナー参加者を中心に、コーディネーターが支援企業掘り起こし
- ・訪問先企業で課題を聴取
- ・課題の解決にマッチする専門家をIMDCから選定

### 伴走支援開始（1社目）

- ・電子部品製造業
- ・DX戦略策定
- ・IMDCによる指導

### 伴走支援開始（2社目）

- ・金属製品製造業
- ・DX戦略作成
- ・IMDCによる指導

### 伴走支援開始（3社目）

- ・生産用機械器具製造業
- ・DX戦略作成
- ・IMDCによる指導

### ITベンダー向け勉強会（1社目）

- ・県内ITベンダーに対し、DX先端企業（大手半導体メーカー）が指導を開始

### 伴走支援開始（4社目）

- ・金属製品製造業
- ・DX戦略作成
- ・IMDCによる指導

### 伴走支援開始（5社目）

- ・生産用機械器具製造業
- ・DX戦略作成
- ・IMDCによる指導

### ITベンダー向け勉強会（2社目）

- ・県内ITベンダーに対し、DX先端企業（大手医療機器メーカー）が指導を開始

### ITベンダー向け勉強会（3社目）

- ・県内ITベンダーに対し、DX先端企業（大手医療機器メーカー）が指導を開始

伴走支援完了（計5社）  
ITベンダー向け勉強会完了（計3社）

### ○伴走支援に向けたDXセミナー

日時：7/7 場所：アートホテル盛岡  
参加者：現地78名、オンライン51名  
内容：基調講演、事例紹介、取組紹介

### 【支援目標⇒実績】

ヒアリング：30社⇒79社  
課題の整理：10社⇒13社  
伴走支援：3社⇒5社

### 成果報告会

日時：3/9 場所：アートホテル盛岡  
参加者：現地71名、オンライン69名  
内容：支援企業による成果報告、DX先進企業によるパネルディスカッション

### ・事業実績：支援を実施した企業数（①課題分析・戦略策定、②課題分析・戦略策定・ベンダーとのマッチングの内訳）、実績結果への所感等

企業が抱えている課題及びニーズのヒアリングは、7/7 伴走支援に向けたDXセミナーの参加者（県内製造業、ITベンダー）等79社に実施。その中で、DX・デジタル化に興味を持つ企業13社に詳細の聞き取りと課題の整理を13社に実施。うち、5社に対してDX戦略を立て、IMDCから専門家を派遣（マッチング）する伴走支援を実施。課題整理のみで伴走支援に至らなかった7社については、IoT機器の導入など部分最適化で終了したため、全体最適化の戦略を立てることが重要と認識。併せて、サプライチェーン構築のため大手製造業による県内ITベンダーへの勉強会を実施。大手製造業（半導体製造メーカー、医療機器製造メーカー、自動車部品製造メーカー）が県内ITベンダー3社にDX業務について指導。県内ITベンダーはものづくり企業への知見がなく参入できないケースがあり、DX先進企業の知識・技術を習得する上で有益な取組になったと認識。

### ・波及効果について：

支援対象企業の取組を広範に周知することで、同業他社から、同様の取組を次年度以降行いたいという話をいただいた。また、大手製造業によるITベンダー向け勉強会を実施したことで、県内のITベンダーをハブとしたサプライチェーンが構築された。

### ・自走化への道筋：受益者負担の考え方、構成員への会費負担の引き上げ、広報活動の強化等

本年度指導にあたったIMDC構成員は次年度以降も引き続き本年度マッチングした企業の支援にあたることを予定しているが、次年度以降の取組についてはBtoBとし、自走化を目指す。

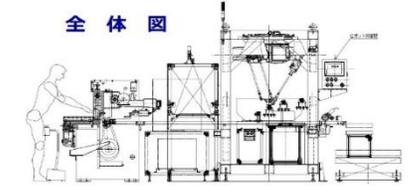
# 【No.2 いわてものづくりDX推進コミュニティ（IMDC）】

## 支援好事例（令和4年度実績）

### 支援先企業名：株式会社相澤鐵工所

#### ● 支援先企業の概要：

- ・業種：生産用機械器具製造業
- ・資本金：3,200万円
- ・従業員数：95名
- ・主要製商品／サービス：シャー、自動シャーリングシステム、プレスブレーキ、金型



#### ● 支援先企業が抱える課題：

自社製品（シャーリングマシン）のユーザー企業から、「部品加工後の検査を自動にしたい」「梱包を自動（半自動）にしたい」という声があり、これらのニーズを自社製品に取り入れ高機能化、多機能化することで他社との差別化、製品の高付加価値化を図りたいと考えた。相談先を検討していたところ、7/7に実施した「伴走支援に向けたDXセミナー」で発表された、令和3年度に実施した「地域産業デジタル化支援事業」における県内他社への支援内容に関心を持ち、代表機関（いわて産業振興センター）に相談。課題を解決できる専門家（IMDC所属）を紹介されたため、指導を依頼することにした。

#### ● 支援内容：

代表機関である（公財）いわて産業振興センターコーディネーターが訪問し、課題や現状を聞き取り。ユーザーニーズである「部品加工後の検査の自動化」「梱包の自動（半自動）化」を実現したいと相談を受けたが、部分最適にならないよう課題の深堀・目的の明確化を行った。結果、会社として「多機能化により他社との差別化を図る」「従来設備にも対応する」ことを目的とした。目的を達成するため、IPAの「DX診断」で現状を把握し、結果を参考にして「DX戦略」の策定を支援。DX戦略に基づきユーザー調査を実施したところ、優先課題は「検査の自動化」であることが判明。IMDCからものづくり産業のシーズの産業化実績を持つ専門家（岩手大学教員）を派遣（マッチング）し、検査の自動化に必要な画像処理・AI技術習得のための人材育成カリキュラム（全15回）を作成。新規雇用したロボット技術者、ソフト技術者に対してカリキュラムに基づき指導を実施した。

#### ● 支援成果：

会社の現状を把握し、課題・目的を明確化するためにIPAが推進する「DX診断」を活用し、結果を参考にしながら「DX戦略」の策定を行った。これにより、目的を明確化しIMDCによる適切な専門家派遣（マッチング）に繋げることができた。専門家派遣後は、全15回の講座・実習を通して、画像処理及びAIに関する基本的な知識や実践的な技術を習得した。受講者は本講座・実習完了時点で、同社が持つ具体的な課題（板金表面の傷検出）の解決に必要なアルゴリズムを構築するためのノウハウ等を独自に編み出す応用能力を習得するに至った。これにより、取組目的であった「多機能化により他社との差別化を図る」「従来設備にも対応する」の達成に向けて大きく前進することができた。本講座で習得した知識・技術を活用し、令和5年度から開発プロジェクトを実施予定。

#### ● 支援成功のポイント：

昨年度の取組を広範に周知したことで、同じ課題を持っている企業に「自社も取り組んでみたい」と意識づけができ、スムーズに支援に繋げることができた。また、コーディネーターと支援先企業が密にコミュニケーションを取り、目的の明確化からDX戦略の策定までお互いの合意のもと進めることができた。その後は戦略に基づき適切な専門家を派遣（マッチング）し、支援先企業は目的を達成するために必要な人材を新規雇用するなど、IMDCと支援先企業が一体となってDX推進に取り組むことができた。